



記者発表資料	
令和7年10月24日	
担当課 (担当)	文化交流課 入江
電話	30-8021 (内線 7051)

第50回（令和7年度）鳥取市文化賞受賞者および贈呈式について

昭和51年から、鳥取市の芸術・文化の振興に顕著な業績を上げた個人または団体に対し、文化賞を贈呈しています。

このたび、3名の文化賞受賞者が決定しましたので、受賞者および贈呈式についてお知らせします。

1 鳥取市文化賞の種類

(1) 文化賞

- ア 美術・音楽・芸能・文芸・学術等の発展に貢献し、特に最近の活動が顕著であったもの
- イ その他とくに著しい業績があったと認められるもの

(2) 文化賞特別功績賞（平成25年～）

主な活動拠点が鳥取県外にあって、その活動が全国的に高く評価され、本市の美術・音楽・芸能・文芸・学術等の発展に大きな功績があると認められるもの

(3) 文化賞奨励新人賞（令和4年度～）

- ア 美術・音楽・芸能・文芸・学術等において、特に最近の活動が顕著であり、将来活躍が期待されるもの
- イ 年齢が概ね40歳以下であるもの

2 鳥取市文化賞の受賞者

【文化賞】

- 1 山根 亮海（やまね りょうかい）〔書道〕
- 2 一般社団法人アーツスペースからふる〔文化活動〕

【文化賞特別功績賞】

- 3 谷口 伸（たにぐち しん）〔音楽〕

※受賞者の詳細は別紙資料のとおり

3 贈呈式

日 時：令和7年11月3日（月・文化の日） 午前9時30分～10時30分
場 所：鳥取市役所麒麟 Square 2階多目的室1

4 その他

- (1) 昭和51年から第49回までに、138名と6団体が受賞されています。
- (2) 受賞者のあいさつ、選考経過報告につきましては、贈呈式当日の11月3日に行います。

第50回 鳥取市文化賞受賞者

やまね
山根 りょうかい
亮海〔書道〕



【受賞理由】

毎日書道展では25歳の若さで会友・公募の最高賞である毎日賞を初受賞。二度目の受賞を経て若干35歳にして会員に昇格。独立書展では2019年に準会員賞を受賞し、2024年には最高賞である会員賞を40歳で受賞、審査会員へと昇格するなど若くして頭角を現す。

また、2009年に鳥取城北高校に着任。翌年書道部を創設し、顧問として後進の育成にあたる。全国公募書道展での文部科学大臣賞を始め上位入賞を果たす部員を多く輩出しており、特に、「書道パフォーマンス甲子園」における第16回、17回大会の優勝・文部科学大臣賞受賞という輝かしい成績を部員と共に掴んだことは、指導者として特筆すべき点である。

【経歴】

- 平成14年 (公財) 独立書人団に入会以降「独立書展」「毎日書道展」へ継続出品
- 平成18年 東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程書道専攻卒業
- 平成18年 鳥取県立高等学校常勤講師
～平成20年
- 平成21年 鳥取城北高等学校 着任 (平成24年より教諭)
- 平成22年 同校に書道部を創部
- 平成30年 (一財) 毎日書道会 会員昇格
- 平成31年 (公財) 独立書人団 会員昇格
- 令和6年 (公財) 独立書人団 審査会員となる
- 令和6年 鳥取書道連盟理事長 就任
鳥取県書道連合会常任理事 就任

【受賞歴】

- 平成21年 第61回毎日書道展 毎日賞 (大字書部) 「廻」
- 平成25年 第65回毎日書道展 佳作賞 (漢字Ⅱ類) 「花對池中…」
- 平成26年 第66回毎日書道展 毎日賞 (大字書部) 「在」
- 平成29年 第38回鳥取県書道連合会展 鳥取県知事賞「華」
- 〃 第69回毎日書道展 佳作賞 (漢字Ⅱ類) 「登龍門」
- 平成31年 第67回独立書展 準会員賞 (会員推挙) 「雲龍」
- 令和3年 第65回鳥取県美術展覧会 県展賞 「雲從龍」
- 令和6年 2024年独立選抜書展 会員賞 「梅」
- 〃 第68回鳥取県美術展覧会 県展賞 「白夢中」

【芸歴・著作歴】

鳥取県立鳥取東高等学校在学中、柴山抱海氏に出逢い薫陶を受けたことにより書の道を志し、以来師事。

高校卒業と同時に柴山抱海氏が代表を務める「山陰書人社」に入会する。

書道教員を志し上京、大学1年次より全国組織の書道団体「(公財)独立書人団」「(一財)毎日書道会」に入会、以降独立書展、毎日書道展への出品を重ねている。

県内においては、山陰書人社展をはじめとし、鳥取市民美術展、鳥取県美術展覧会へ出品を重ね、現在は両展とも無鑑査資格。また、所属する鳥取書道連盟、鳥取県書道連合会の主催する各種展覧会へも出展を続け、活躍の場としている。

また、大学卒業後帰鳥し、県立高校の講師を経て2009年に鳥取城北高等学校に着任。翌年書道部を創部し、顧問として後進の指導・育成にあたり現在に至る。「全国高校生大作書道展」での文部科学大臣賞1名、大作大賞2名の他、「国際高校生選抜書展」での準大賞2名、中国地区団体優勝等、全国公募書道展で上位入賞を果たす部員を多く輩出。全国高等学校総合文化祭には県代表として過去10名の部員が出品している。

書道パフォーマンスにも精力的に取り組む。毎年、愛媛県四国中央市にて開催されている「書道パフォーマンス甲子園(全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会)」には6大会連続7回の出場を果たしている。第15回大会(2022)の準優勝を経て、第16回(2023)、第17回(2024)大会において、優勝・文部科学大臣賞という輝かしい成績を部員と共に掴んだ。

大会参加の他、地域のイベントでの書道パフォーマンス披露をはじめ、鳥取市・兵庫県新温泉町の小学校での書道パフォーマンスを通じた交流、幼稚園での書道体験交流等を実施、書道に触れる機会の創出を積極的に行っている。

また、四国中央市が主催する「書道文化醸成事業」(令和5・6年度)の講師に招聘され、小学校・中学校等での講演の他、書道のワークショップや書道パフォーマンス体験を実施するなど、書道の継承と普及に努めている。

【作品に対する思い】

「熱情を書に託せ」

書の道を志した18歳の時、師が伝えてくださった言葉が、常に傍にあります。「書は熱からしか生まれない」ともおっしゃいました。力漲る、熱の籠った逞しい書、生命感に溢れる書の創造を根底において向き合ってきたように思います。見てくださる方々へ訴えかける力に満ちた、説明の出来る仕事を心掛けたいと思い筆を執ってきました。

壮年となり、これまでとは異なる書風、表現の模索も必要だと感じています。古典に立脚した上で、新たな自分の世界を切り拓いていけるよう、一層の精進を重ねていきたいと思えます。

また、自分が書きたいと思う素材との出逢いをこれからも大切にしていきたいと思えます。「今の自分だから書ける、書かなければならない」…様々な経験や出逢いの中で、内から湧き起こる感動をどの文字に、どの言葉に託して表現しようか、その歩みを繰り返してきました。過去の作品を振り返ると、自分の年表を示すかのように感じる場合があります。

今後見るもの、聞くもの、そして自分自身の心の動きにアンテナを張り、受け止める力を磨く中で、たまたま書きたいと思える素材に向き合い、自分らしく墨線を刻んでいきたいと思えます。

【活動に対する思い】

「誰の為に、何のために書道をしているのだろう…」そのようなことを考え始めるようになりました。

目まぐるしく様々な技術が進歩する現代、手で文字を書く機会すら減っていく中、筆で文字を残すことの意味、芸術としての書の存在意義とは何か…。

時代の流れに逆らうように伝統文化が見つめ直され、大切にされる風潮や流行に皮肉ささえ覚えることもあります。

中々結論には至りませんが、ただ純粋に、筆で文字を書く楽しさ、自分の手で書いた文字を届ける素晴らしさ、目に見えない想いを文字に託して表現する喜びを、1人でも多くの方に知ってもらいたい、感じていただきたいと思っています。

書の継承と更なる普及…大げさかもしれませんが、1人の書道人として、自身の作品を書芸術の高みへと昇華させるため、精進を重ねることはもちろん、自分に果たせること、果たすべきことを、筆を執りながら考え続け、向き合っていきたいと思います。

第50回 鳥取市文化賞受賞者
一般社団法人アートスペースからふる
〔文化活動〕



【受賞理由】

障がい者が個性を活かし、働きやすく暮らしやすい地域社会とは何か。利用者の就労や仕事のあり方を考えつつ、「アートを仕事に」するという高い志を掲げ社会とつながるといふ仕組みづくりを目指して活動している。

利用者の意思及び人格を尊重し、常にその立場に立ったサービスの提供に努めることを方針に掲げ実践しており、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、通常の事業所に雇用されることが困難な利用者に対して就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、知識及び能力の向上のために必要な修練その他の便宜を適切かつ効果的に行ってきた。また、鳥取市美術展などの公募展でも利用者の作品が評価され多数の受賞を受けている。

設立目的に「障がい児者のアート制作を中心に、すべての人が主体的に社会参加し生きがいを持って自己実現に向けた地域生活を営めるよう支援し、共生の地域づくりを目指す」とあるように、「からふる」のアートを通じた障がい者福祉の事業は、障がいのある人々に光をあて、生きがいをもたらす活動としてその存在は大きい。

【経歴】

- 平成17年 現理事長が個人事業としてアート教室アートスペースからふるを立ち上げる
- 平成26年 NPO法人楽のグループとなり就労継続B型事業所開所
- 平成30年 一般社団法人設立
- 平成31年 現在地で就労継続支援B型事業所開所
- 〃 ギャラリーからふる運営開始
- 〃 アソビバからふる（アート教室）開始
- 令和元年 鳥取県は一とふるアートギャラリー認定第1号
- 令和5年 あいサポート・アートセンター運営事業を共同事業体の代表者として受託

【受賞歴】

- 平成26年、28年、29年、令和4年、5年、7年 鳥取市美術展（旧鳥取市民美術展含む）市展賞輩出
- 平成30年 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 審査員賞（最高賞）輩出
- 令和元年 あいサポート・アートとっとり展最優秀賞輩出
- 令和3年 三井住友海上あいおい生命10周年記念キャラクターコンテスト優秀賞受賞者輩出

【芸歴・著作歴】

- 平成21年、22年、26年、30年、令和2年
鳥取信用金庫カレンダー挿絵採用
- 令和 元年～フクシ×アート WEEK(現フクシ×アート WEEKs)開催
- 令和 3年 日本海新聞コラム「潮流」掲載／全12回
〃 株式会社ヘラルボニー登録作家契約
- 令和 4年～鳥取洋画家協会展招待出品
- 令和 5年～鳥取県立バリアフリー美術館登録作家多数輩出
その他、数多くの個展・企画展を開催

【作品に対する思い】

現在アートスペースからふるには、障がいと共に生きるアーティストが40人近く在籍中です。それぞれの個性が光る場所、時を模索しながら団体一同でより良い社会を目指して活動しています。

【活動に対する思い】

『アートスペースからふる』は、アートをする者、それをサポートする者、空間、画材などの環境の整った場をアートスペースと捉え、障がいのある人もない人も通えるアート教室として2005年1月鳥取市でスタートしました。全体展をとりぎん文化会館展示室などで5回、企画展や個展等を主に鳥取市内のパンカフェののな(現cheese garden)にて45回以上展示し、多くの皆様にご覧頂きました。その中で日々生まれてゆく作品達を、「もっと多くご覧頂きたい」「できるなら商品として皆さんのお手元に届けたい」という想いを抱くようになりました。

その想いは2014年5月倉吉市のNPO法人楽の元、アート教室からアートを仕事とする福祉事業所としてスタートすることで実現しました。アートを仕事とすることは一般的に考えても難しいことではありますが、彼らの作品を見ていると可能に思えてきます。「他の絵も見たい」「手元に置き長く眺めたい」そんな気持ちを抱かせる能力を才能と呼ぶのなら、彼らにはそれが備わっているのではないかと思います。また公募展に積極的に応募し数々の賞を受賞しました。アートには障がいがあることなど関係ないと証明されたのです。

そして2019年1月、一般社団法人として独立という形をとりました。1階部分は就労スペース、2階部分はギャラリーを併設し今まで以上に多くの方に作品を見て頂ける場所にしました。また作品をあしらったオリジナル商品の展示・販売も行い、「もっと多くご覧頂きたい」「できるなら商品として皆さんのお手元に届けたい」という想いは現実のものになりました。

これからアートスペースからふるが実現していきたいことは「ここがあらゆる人にとって必要な場所になってほしい」という願いです。コミュニティスペースでお茶を飲みゆっくり過ごす、ギャラリーにて豊かな発想に触れる、アソビバで普段できないアート活動をする、からふるなグッズを購入する、就労施設で自身のイメージを形にする、障がい者支援という仕事に就く。アートスペースからふるがあって良かったと思っていただけるよう、これからもひとつひとつ願いを実現していきたいと思えます。

第50回 鳥取市文化賞特別功績賞受賞者

たにぐち しん
谷口 伸〔音楽〕



【受賞理由】

声楽家（バリトン）、オペラ歌手であり、主にドイツで活動を行っている。音楽専攻ではない大学の文学部に在席し、大学のグリークラブで合唱をしながら声楽の道へと進み、国内では日本音楽コンクール入選を始めとする主要コンクールに入選、海外でも国際コンクールでの総合優勝など、数々の受賞歴をもつ。

1998年からウィーン国立音楽大学で研鑽を積み、2002年最優秀で卒業。その後ドイツの市立歌劇場と専属契約を交わし、今は州立劇場のオペラ歌手として活躍中である。その活動内容は新聞・雑誌紙上で常に高い評価を得ている。

その一方、数年単位で故郷の鳥取市に帰郷し、コンサート（鳥取県内で活躍するオペラ歌手たち）を行っており、2025年には、鳥取市民会館で「オペラズ・コンサート WITH 谷口伸」に出演し演奏。鳥取市にクラシック、特にオペラの文化を伝え続けている。

【経歴】

鳥取東高等学校、慶應義塾大学文学部卒。大学在学中、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団のバリトンパートリーダーとして活躍。毎日学生音楽コンクール大学・一般の部東京大会2位。卒業後、数年のサラリーマン生活を経て、声楽家を志す。

平成10年 ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科入学
平成14年 ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科を最優秀で卒業
平成17年 ドイツ・ゲルリッツ市立劇場と専属契約
平成22年 ドイツ・ツヴィッカウ市立劇場と専属契約
平成30年 ドイツ・マイニンゲン宮廷劇場と専属契約

【受賞歴】

平成6年～ シューベルト国際歌曲コンクール 第2位
NHK 新人洋楽オーディション 合格
イタリア声楽コンクールソミラノ部門 金賞
日本声楽コンクール 第3位
日本音楽コンクール声楽部門 入選2回
平成12年 国際シューマンコンクール 歌曲部門 第3位
平成14年 ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科 最優秀で卒業
愛知・長久手オペラ声楽コンクール 第2位
平成16年 デビュー・イン・メラン国際声楽コンクール 総合優勝

【主な活動】

アルマヴィーヴァ伯爵（モーツァルト「フィガロの結婚」）、フィガロ（ロッシェニ「セヴィリアの理髪師」）、リゴレット（ヴェルディ「リゴレット」）、スカルピア（プッチーニ「トスカ」）等オペラの主要な役はもとより、オペレッタ、ミュージカルまで幅広いレパートリーを持ち、これまでの全ての役において、新聞・雑誌紙上で常に高い評価を得る。

また2011-2012シーズン、A.ジーガート演出による「セヴィリアの理髪師」で演じたフィガロが、ドイツ・オペラ専門誌“Opernwelt”の「50人の批評家によるシーズン評」で最も良かった歌手の一人として選出・評価される等、確実にドイツでの基盤を広げている。

また、コンサート歌手としても300を超える歌曲のレパートリーを持ち、バッハ「クリスマスオラトリオ」、ブラームス「ドイツレクイエム」等、宗教曲のソリストとしても精力的に活動している。

声楽を門屋留樹、畑中良輔、V.ミラキアン、リート解釈をW.ムーア、H.ホッター、D.F=ディースカウ、O.ベアー各氏に師事。

平成17年【ゲルリッツ市立劇場専属契約】

ヴェルディ「リゴレット」のタイトルロール

リヒャルト・シュトラウス「サロメ」ヨカナン役

平成22年【プラウエン=ツヴィッカウ市立劇場専属契約】

モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロール

ヴェルディ「仮面舞踏会」レナート役

ロッシェニ「セヴィリアの理髪師」フィガロ役

平成23年 大阪交響楽団第153回定期演奏会で「さすらう若人の歌」 演唱

平成28年 福岡ソフトバンクホークスの試合前の国歌独唱

大阪交響楽団第203回定期演奏会で「5つの初期の歌」、

「リュッケルトの詩による5つの歌曲」 演唱

平成30年【マイニンゲン宮廷劇場専属契約】

ビゼー「カルメン」エスカミーリョ役

オトマール・シェック「デュランデ城」レナルド・デュボア役

プッチーニ「トスカ」スカルピア役

令和 2年 NHK 交響楽団「第九」 バリトンソロ

令和 3年 イプセン原作によるオペラ「幽霊」世界初演に参加

【活動に対する思い】

おぎゃあと産まれた赤ん坊が成人するのに日本では20年、それと同じだけドイツで歌ってきましたが、未だに歌い手として成人したという実感はありません。舞台に立って歌い演じる事ができるのは、…あと10年少々ですかね。恐らく生涯満足することはないと思います。でも飽きることもないと思います。そこそ自分で納得の行く声が出なくなるその日まで、歌い手でいられたらいいなあと、ぼんやり考えています。